

研究テーマ：Reading への移行と読解力の定着について

所属 山田高校定時制

氏名 武島絹代

R G S H 3

1. 研究の背景

＊対象クラス 4 年生（男子 4 人 女子 6 人）

本校定時制では、英語 I・II が 2 単位ずつ 2 学年にわたって分割履修となっている。1 時間の授業が 40 分と短い上に、生徒の出席率が全日制に比べて悪く、コンスタントに全員が揃う事が少なかった。また、社会人の学校の要素が強く、生徒の学習能力差が著しいため、教科書の使用ができず、教師が作成したプリントでの文法中心の授業を行ってきた。しかし、3 年前の大幅な教員異動に伴う新山田高校定時制の改革や学校週 5 日制により、生徒の出席率が目に見えてよくなってきた。そのため、入学時には「とりあえず高卒の資格が欲しい。」と言っていた生徒達が、「大学に行きたい。短大に行きたい。」と言い始め、高卒の先を見つめる生徒が多くなってきた。

しかし、進学を考える生徒が増える中で、従前からの文法中心の授業で英語の文章に慣れていない事や語彙力に力を入れてこなかった事で、生徒達がとりあえず進学を果たしたにせよ、大学の授業についていけるか心配だ。生徒が将来を見据え始めた変化に合わせて、英語の授業での改革の必要性を痛感している。週 2 単位の 40 分授業という制約の中で、英語の文章を読んで文意を理解していく授業への移行をいかに効果的に行い定着させていくか、今までの反省を生かして今回の研究課題としたい。

2. リサーチクエスション

文法学習中心の授業から文章（reading）を読解させる授業への移行と効果的な定着について

3. 予備調査

予備調査 1－（授業観察の結果）

単語やフレーズには積極的に取り組むが、英文となると「お手上げ」の表情が生徒に表れる。英語の文章というだけで「わからない」と決め付けているような感もするが、英語が苦手な生徒にはこれからの授業に不安だけを残してしまったような気がする。

予備調査 2－（英語力を示すデータ）

文法中心の授業では、反復練習がメインなので、比較的苦手とされる文法もしっかりこなしてきたが、英文読解の授業に変えてみるととたんに平均点も下がり、生徒の自信喪失につながってしまったように思える。教師側のアプローチがまずかったことが原因だと思う。

4. 仮説の設定

仮説 1

読ませようとする英文を短く平易なものを選び、音読を重視する

仮説 2

英文の内容に関する質問を与え、英文の大意をつかませる

仮説 3

語彙力をつけることに重点をおく

5. 計画の実践

(別紙資料1・2)

語彙力―生徒が理解しているであろう英単語も再提示し発音を強化した。

音読 ―語彙・英文ともに、音読に力を入れた。

英文の内容―教科書にこだわらず、短くて平易な英文を選んだ。生徒の状況に合わせ、徐々に英文を長くするなどレベルを上げていった。

6. 実践の結果

仮説1―読ませようとする英文を短く平易なものを選び、音読を重視する

導入として、読ませる英文の簡単な説明を日本語で与えると、英語の苦手な生徒も取り組む姿勢が見られ効果的であった。生徒の状況を見ながら徐々に英文を長くすると、取り組まなくなる生徒が見られたので、音読を重視し何度も読ませて読解につなげてみた。しかし、語彙力が定着していない事がネックになった。

仮説2―英文の内容に関する質問を与え、英文の大意をつかませる

英文が短くて平易だと内容に関する質問にも意欲的に答える事ができるが、英文のレベルを上げたり長くしたりすると、生徒は英文でなく質問だけで内容を類推するようになった。中には英文を読まずに質問に取り組んだだけで勝手な(自由な)英文読解につなげる生徒も出てきた。そのため、断片的に内容の把握につながるような質問を教師が投げかけると、それをヒントにして英語の苦手な生徒も取り組むようになり良かった。徐々に生徒の反応が良くなり積極的な取り組みが見られるようになってきた。

仮説3―語彙力をつけることに重点をおく

一言で言えば、仮説で終わってしまった感がする。その時間の英文読解に追われ、語彙の反復練習が手抜きになってしまったし、次の教材につなげる事ができなかったからだ。発音はしつつこく取り組んだので、英文読解中、発音から英単語の意味を思い出して読解に取り組めた生徒がいた事は良かった。英文読解との時間配分が難しかった。

7. 結果の検証

(別紙資料3)

語彙力が英文読解につながるという事の再検証になった。教材となる英文と語彙の練習との時間の配分が厳しく、語彙力を定着させるための効果的な練習の工夫をしなければならない。

8. 成果と今後の課題

「英文なんか読めない。わからない。」という思い込みから、生徒が英文を読み取る事に抵抗が見られなくなったので、reading への移行はできたと思う。しかし、基本となる語彙力の指導が充分でなかった。まさしく本末転倒だった。定時制では仕事の関係上家庭学習をする生徒が皆無に等しく、授業だけで定着を図らなければならない。語彙力をつけるために、反復練習をいかに充実させていくかが大きな課題だと思う。また、読解においても、プリントの質問だけでなくコミュニケーション的な質問・応答をもっと取り入れていきたい。時間配分の見直しが大いに必要だ。いろいろな制約にとらわれず、生徒の状況に合わせて、新しい取り組みや工夫をしていきたい。

(参考文献) 佐野正之(2000)『アクション・リサーチのすすめ』 大修館書店

金谷 憲(2002)『英語授業改善の処方箋―マカに考えマカに対処する』 大修館書店